

インフルエンザ点鼻ワクチン「フルミスト」について

フルミストは、鼻にスプレーするタイプの**弱毒化された生ワクチン**です。

ウイルスの一般的な侵入口である鼻の粘膜に免疫を誘導することにより高い感染防御効果が期待でき、同時に血液内にも免疫を成立させることにより、インフルエンザに感染してしまった場合でも重症化を抑制すると言われています。米国 CDC ガイドラインでは、「**接種後 2 週間でワクチンの効果が得られる**」とされ、効果期間が皮下注射では約 5 か月間持続するのに対し、フルミストでは約 1 年持続するとされています。

鼻にスプレーすると、鼻粘膜など低温でも増殖でき、比較的高温の下気道（気管支・肺）では増殖しづらいため、自然のインフルエンザのような強い症状（副反応）はでてこないようになっています。

接種対象、回数

今回承認された接種対象は、**2 歳から 18 歳まで**の方です。

接種回数は年齢にかかわらず、**毎年 1 回**でよいとされています。

※海外では 8 歳未満・未接種かつ未罹患の方は 2 回接種となっておりましたが、本邦では臨床研究の結果から 1 回接種でも十分免疫がつくため、1 回接種でよいということになりました。

※経鼻生ワクチンでは他のワクチンとの間に接種間隔を空ける必要はありませんので、他のワクチンの接種歴・接種予定にかかわらず接種いただけます。

喘息患者の方への接種について

米国では、喘息または喘鳴の既往歴のある 2～4 歳児への接種を推奨していません。本邦の添付文書上でも重度の喘息を有する者又は喘鳴の症状を呈する者における接種には注意が必要とされています。

フルミストの副反応

- ワクチン接種後にくしゃみが出たり、喉にたれたりすることがあります（飲み込んでも特に問題ありません）。
- 30～40% の人で接種後 3 日～7 日までに鼻汁・鼻閉・咽頭痛・咳などの感冒症状、数% の人で発熱することがあります。ワクチン接種後インフルエンザ抗原検査を行うと 1 週間程度陽性になることが報告されており、流行期の接種はお勧めできません。
- まれではありますが発疹、じんましんの他にアナフィラキシーショックやギランバレー症候群のような重い副反応を起こす可能性は、他のワクチン同様否定できません。

フルミストのメリット

- 鼻腔内に噴霧に適した濃度・成分調整された薬液を噴霧するため痛くありません。
- インフルエンザの感染経路である鼻咽頭で免疫が作られるため、高い発症予防効果が得られます。
- 予防接種に含まれるインフルエンザ株と異なる株が流行した際にも、皮下注射のワクチンと異なり、ワクチンの効果が期待できます。
- ワクチンの効果は 1 年くらい持続します。
- 小児で特に予防効果が高いとされています。
- 12 歳以下のお子様でも年 1 回の接種でよいとされています。

フルミストのデメリット

- 30～40% の人で接種後 3 日～7 日までに鼻汁・鼻閉・咽頭痛・咳などの感冒症状が出る場合があります。
- 接種年齢に制限があります。
- 皮膚科学会よりアトピー性皮膚炎への経口 JAK 阻害薬の中断が求められました。